

意見交換会の開催結果について（森孝中ブロックの小・中学生及び未就学児の保護者・地域の皆様）

- ・令和８年１月２１日(水)、２５日(日)に本地丘小・森孝東小・森孝西小及び森孝中の保護者の方、未就学児の保護者の方及び地域の方を対象とした「本地丘小学校・森孝東小学校・森孝西小学校の統合及び森孝中学校との併設(案)に関する意見交換会」を開催しました。
- ・意見交換会でのご意見やメールでお寄せいただいた内容等に対する教育委員会の考え方をまとめました。
- ・内容について、趣旨の類似するものはまとめさせていただいたほか、ご意見を一部要約し、また分割して掲載しておりますのでご了承ください。
- ・なお、下記①～⑦の項目は、意見交換会説明資料の項目と関連付けていますので、意見交換会説明資料と併せてご覧ください。

１回目:令和８年１月２１日(水)19:00～20:40 森孝中 体育館 …参加人数:12名

２回目:令和８年１月２５日(日)10:00～11:50 森孝中 体育館 …参加人数:22名

区分		お立場					
		未就学児 保護者	小学生 保護者	中学生 保護者	(うち重複)	地域住民	合計
学区	本地丘小		1			3	4
	森孝東小	3	3		(2)	22	26
	森孝西小					4	4
	合計	3	4	0	(2)	29	34 (延べ人数)

① なぜ3小学校を統合するのかについて

No	ご意見・ご質問	教育委員会の考え方
1	○意見交換会の説明資料では、6年後までの短期推計と、6～15年後までの長期推計で人数が異なりますが、どのような数字を基礎としていますか。	6年後までの短期推計は、令和7年時点の実際の児童数・未就学児数を基にしています。一方で、6～15年後までの長期推計は、令和2年国勢調査の結果を基にしています。
2	○森孝中の生徒数について、6～15年後の将来推計はどの程度と見込んでいますか。	およそ200人程度と見込んでいます。

3	<p>○小学校と中学校が併設となった時点での教職員の人数、出入りする業者の人数はどの程度になると考えていますか。</p>	<p>小学校と中学校が併設した時点の教職員数は、およそ 55 名程度と見込んでいます。出入り業者の人数については、想定していません。</p>
4	<p>○「小規模化の傾向」の定義があいまいで、今の森孝中ブロックの状況が、個別プラン作成の要件を満たしているのか疑問です。「小規模校が継続する」ことの解釈について、「ナゴヤ子どもいきいき学校づくり計画」策定時の意図を説明してほしいです。</p>	<p>「ナゴヤ子どもいきいき学校づくり計画」における「6 年間小規模校が継続する見込みであること」については、その時点での実際の児童数・未就学児数等を基に算出した短期推計を確認して判断しています。</p> <p>一方で「6～15 年後も小規模化の傾向であること」については、令和 2 年の国勢調査を基に算出した長期推計を踏まえ、将来的な人数はどの程度になる見込みなのかを確認して判断しており、直近と将来の 2 点から小規模校の状況が続くかどうかを判断しているものです。</p>
5	<p>○長期推計を見ると、森孝東小と森孝西小の児童数には大きな変化がありません。本地丘小の児童数はさらに減少していくと見込まれているため、早急に本地丘小と森孝東小を統合することが望ましいと思います。</p> <p>小学校 2 校は存続させ、児童数に変化が起きた時点での対応を望みます。</p> <p>○本地丘小の児童数減に対応したいのであれば、「ナゴヤ子どもいきいき学校づくり計画」に基づかない対応も検討した方がよいと思います。</p>	<p>本地丘小、森孝東小、森孝西小はいずれも小規模校であり、特に本地丘小の小規模化は著しいため、早急に小規模校の解消に取り組んでいきたいと考えています。</p> <p>なお、本地丘小と森孝東小だけを統合しても小規模校のままとなってしまいます。そのため、森孝西小を含め 3 校の統合が必要であると考えています。</p> <p>本地丘小の小規模化は計画に基づき、令和 10 年 4 月統合を目標として、解消していきたいと考えています。</p>
6	<p>○森孝中の場所で併設校が完成した時の小学校と中学校の子どもを合わせると約 450 名と聞きました。</p> <p>同じ敷地に多くの子どもが生活することになると、大人の目が届かなくなるかもしれないと心配しています。</p>	<p>小学校 272 名、中学校 181 名で合わせて 450 名程度の学校というのは、小学校と中学校を併設で運用していくことを考え合わせても、むしろ、比較的小規模な学校であると考えています。小学校と中学校それぞれの学校には必要な教員数を配置しますので、目が届かないという心配はないと考えています。</p> <p>その上で、クラス替えができる適正規模の学校になります</p>
7	<p>○昨今、ゆとりある教育環境が求められており、少人数での学びの環境の方が、子ども一人一人に行き届いた指導が実現される上に、不登校やいじめ等へのきめ細やかな対応できたり、教員の長時間労働の是正につながった</p>	<p>少人数学級と小規模校との違いを分けて考えていただけるとよいと思います。本市では 1 クラスの児童数の上限が決まっています。1・2 年生は 30 人、3 年生から 6 年生は 35 人となっており、1 クラスの人数の上限は統合して適正規模となっても変わることはありません。</p>

	<p>りすることなど多大なる教育効果が考えられます。</p> <p>少人数学級によるより良い環境の中で、一人一人に行き届いた指導の実践が図られる方が、子どもを大切にしていけることに繋がるのではないのでしょうか。クラス替えの有無の一言ですべて結論付けてしまうのはどうかと思います。</p>	<p>森孝中ブロックの子どもたちは、1学年1クラスという本当に少ない人数の関わり中で6年間続けて学校生活を送っているのが現状です。この限られた関わりの中での成長していくのは良い環境とは言えないと考えています。例えば、何かトラブルがあった時に、嫌な気持ちを抱えたまま6年間過ごしていくのはよい環境とは言えないと考えています。</p> <p>統合して1学年2クラス以上になれば、クラス替えをしてその環境を変えてあげることができ、また、人数が増えればたくさん子どもたち同士で関わり、たくさんの考えに出会うことができ、子どもたちはより成長できると考えています。</p>
8	<p>○本日参加されている祖父母の皆さんは、自分のお子さんが森孝東小・森孝西小・本地丘小を卒業された方が多いと思いますが、親としてクラス替えが無くて困ったと思うことや、問題ある大人になったとは思っていません。むしろ、小学校時代は家庭的で、担任の先生がきょうだいの名前まで知っていてくれてうれしいというような状況でした。</p> <p>クラス替えができなければ小学校教育としてふさわしくないとは思いません。</p>	<p>適正規模であれば経験できることが小規模校では経験できないということが多々あります。小規模校の学校としては、少ない人数の中でも子どもたちによりよい教育をするために、できる限りの努力と工夫を行っています。例えば、縦割りの活動を充実して、多くの人との関わりを学ぶ場面を補うなどの工夫や努力をしていることをご理解いただければと思っています。</p> <p>学校運営の観点では、子どもの人数が多かろうと少なかろうと、学校が担う仕事量は変わらず同じだけあります。教員数が少ない学校では、一人で複数の仕事を兼ねて行う必要があります。そのため、教員一人当たりの負担は、適正規模の学校と比較すると、小規模校の方が大きい面があると考えています。また、教員の経験年数や男女比のバランスがよい学校の方が、子どもたちにとっても教員にとっても望ましい状態であると考えています。しかしながら、小規模校になると、学級担任を受け持つ教員数が少ないため、そのバランスがうまく取れないことが起こる可能性が高くなってしまいます。</p> <p>たかしま小でのアンケート結果の中では、「担任を持ってほしい先生が増えた」という子どもたちの声もあり、教育委員会としては、クラス替えができない小規模のままでよいとは考えておらず、適正規模の学校をつくっていきたいと考えています。</p>
9	<p>○クラス替えのできる適正規模の学校とすべての学年において1学年1クラスの小規模校では、教育や子どもたちの成長等にどのような違いがあるのか、実証的に説明してほしいです。</p> <p>その違いから、明らかに適正規模であると課題がなく、</p>	<p>小規模校では、適正規模の学校と比べて、行うことができる活動に限りはありますが、少ない人数なりに充実した学校生活となるように、精一杯の工夫と努力を重ねて教育活動を行っています。お尋ねのあった、教育活動や子どもたちの成長においての違いについて実証されたデータはありません。</p>

	<p>小規模だと課題があるのか、また、小規模の程度によってどの程度、課題が生じるのかについても教えてほしいです。</p>	<p>これまでの統合したケースでは、統合後の子どもたちに対してアンケートを取っており、下記のような結果が出ています。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>Q:「人数が増えましたがそのことをどう思いますか」</p> <p>A:丸の内小 「良かった」約7割、「まあまあ良かった」約2割</p> <p>A:たかしま小 「良かった」約6割、「まあまあ良かった」約3割</p> <p>※2校ともに約9割の児童が「良かった」「まあ良かった」と回答しています。</p> <p>Q:「人数が増えたことで、友だちや遊びについてどのように変わりましたか？」</p> <p>A:2校ともに、約8割の児童が「友達が増えた」と回答しています。</p> </div> <p>これらの結果は軽視してはいけないものと考えており、これは望ましい教育環境にした結果、子どもたちにこのような変化があったことを実証的に示すものだと考えています。</p>
10	<p>○統合することは、子どもたちに直接、影響があることになると思いますが、どうして現在の森孝東小、森孝西小、本地丘小、森孝中の子どもたちにアンケートを取らないのでしょうか。</p>	<p>子どもたちにとって、単学級と複数学級の違いは、これまで体験したことがない事柄なので、子どもたちから意見を取ることは難しいと考えており、大人が責任をもって判断することが必要だと考えています。</p> <p>また、統合決定前に子どもたちに直接意見を聞くことは、統合の是非について、ある意味で子どもたちに責任を負わせることになると考えています。</p> <p>子どもたちには、統合後の新しい学校づくりに向けた検討の中で、アイデアをもらいたいと考えています。</p> <p>子どもたちへは、統合した後に、多くの人数での学校生活を経験して感じたこと等に関して、アンケートを取っています。</p>
11	<p>○本地荘の建て替えは計画されていないとのことですが、後に計画ができた段階で児童数がどのように変化するのか、これまでの住宅の建て替えから類推したデータはないのでしょうか。</p>	<p>市営住宅の建て替え後の具体的な児童数の変化に関する数値は持ち合わせていません。</p> <p>なお、市営住宅を所管している部署に確認したところ、特に本地荘のように棟数が非常に多い住宅の建て替えには、かなり時間を要するので、建て替え前後や建て替え最中で大きな人口の増減は想定していないと聞いています。</p>

② どの場所で3小学校を統合するのがいいのかについて

No	ご意見・ご質問	教育委員会の考え方
1	○通学距離の目安の2 km について、どのような根拠で問題ないと判断したのでしょうか。	「ナゴヤ子どもいきいき学校づくり計画」においては、通学距離について概ね小学校が2 km、中学校が3 km を目安としています。これは、計画策定当時の市内の小中学校の通学距離の最も遠い場所が、小学校で概ね2 km 以内、中学校で概ね3 km 以内で通学路を設定している学校が多い状況だったことを踏まえて目安としたものです。

③ 森孝中の場所で小学校を統合するなら、森孝中はどうなるのかについて

No	ご意見・ご質問	教育委員会の考え方
1	○小学校には観察池や遊具が必要で、中学校には格技場や広い校庭の面積が必要との説明でした。それならば森孝東小の観察池や遊具、教材園などの場所は校庭として広げられると思います。中学生の通学距離としては森孝東小の場所でよいのではないのでしょうか。中学校が移設されるならば、跡地利用問題についても少し変わるのでないのでしょうか。	<p>中学校の教育活動において、体育の授業や体育祭等をできるだけ現在と同様に行うためには、運動場の200mトラックや100mの直線コース、格技施設などの確保が必要だと考えています。しかし、森孝東小の敷地では、それらの確保が難しいと考えています。</p> <p>なお、現在の森孝東小の敷地をサブグラウンドとして使用する場合は、観察池や遊具等がある場所も含めてグラウンドとして使用できるよう改修することを想定しています。</p>
2	○森孝東小では200mトラックや100mの直線コースを確保できないと説明されましたが、どこまで本気で検討された上でこの回答をされたのでしょうか。校舎をつぶさなくても、今、花壇になっているところを平地にさえすれば、必要な施設が確保できるのではないのでしょうか。	<p>森孝東小に200mトラックや100mの直線コースを描いた図面をご提示いただきましたので、貴重なご意見として承り、まずは数字などを確認させていただきます。</p> <p>私どもといたしましては、図面上でトラックやコース等を配置しながら、確保が可能か否か検討したうえで、お答えしています。</p>
3	安全面から、小学校と中学校の子どもたちが日常生活の中で接触する機会を減らす配慮をする説明でした。それなら、そもそも小学校と中学校を一緒にする必要はないと思います。	<p>今回の併設案の策定にあたって、次のような考え方で3小学校の統合と中学校との併設が適切であると考えています。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①小規模校を解消するために3小学校を統合する必要がある。 ②小学校の統合場所は通学距離が2 km以内となる森孝中の場所が適切である。 ③中学生にとっても森孝中の場所が、敷地や運動場の広さ、施設等で適切である。</p> </div> <p>児童生徒の体格差に配慮した安全の確保を行う一方、小学校高学年の授業を中学校の教員が担当することや行事の合同開催など、小中併設を活かした取り組みを行う予定です。</p>

④ 小中併設になると、どんな課題や利点があるのかについて

No	ご意見・ご質問	教育委員会の考え方
1	<p>○子どもたちにとって統合はとても不安なことだと思いますが、どのような対策を考えていますか。</p>	<p>統合は、子どもたちにとって環境が大きく変わるので、不安を感じることがあると考えています。その不安への対策のひとつとして、統合を決定した学校では、スクールカウンセラーが講師となり、「新しくできる友だちと仲良くなること」や「困った時に周りの大人と相談すること」を学ぶ「心の学習」を全ての学級で行っています。</p> <p>また、統合前に、統合する学校の子ども同士で交流を行っていくことが大切なことであると考えています。これまでの統合校では、下のような交流活動を行い、統合に対する不安を減らし、統合を楽しみに思えるような取り組みをしています。</p> <div data-bbox="996 606 2094 837" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中津川野外学習のキャンプファイヤー、科学館のプラネタリウム投影の見学を合同で実施。 ・ 同じ学年の子どもたち同士で交流会を開催。 ・ 作品展の際に、相手校へ行って作品を見て、メッセージカードを送る。 等 </div>
2	<p>○小学生と中学生が同じ校舎で生活することに対する安全対策はどのように考えていますか。</p>	<p>校舎については、教室等を階層別に区切り、低層階の1・2階は小学生、高層階の3・4階は中学生が主に使用する教室を配置します。また、昇降口を別々に配置するなど、日常生活で子どもたちが接触する機会があまりないような設計を検討していきます。</p>
3	<p>○中学生は思春期ということもあり、とても不安定な時期だと思います。受験が近い中学校3年生が無邪気な小学生に対していつも優しく接することができるのか疑問を感じます。</p>	<p>同じ敷地内で小学校と中学校を運営している笹島小中学校に、小中学校間で起こるトラブルについて聞き取りをしたところ、トラブルは大小に関わらず聞いておりません。階層をしっかりと分けているうえに、用事が無い時には互いの階層には行かないというルールを徹底していると聞いており、声がうるさいという意見も聞いておりません。</p> <p>また、中学生は小学生に対して優しく接しており、小学生が見ているところでは、悪い行動はできないと聞いています。小学生もあのような中学生になりたいという憧れの気持ちを抱き、よい影響があると聞いています。</p>

4	<p>○小学校1年生から中学校3年生までを比べると、精神的・身体的・生理的な発達の度合いは大きく違います。その児童・生徒が一緒にいる中では、どのような問題が起きるのでしょうか。小規模校である笹島小中学校と単純に比べて、「笹島小中学校ではうまくいっているから問題ない」というような結論ではいけないと思います。</p>	<p>例えば、授業時間の管理であれば、小規模校でも同じように小学校45分、中学校50分と違います。笹島小中学校の場合は中学校ではチャイムを使わず、小学校でチャイムを鳴らす対応をしています。</p> <p>また、施設整備に関しては、文部科学省が小中一貫教育に適した学校施設の在り方について報告書を公表していますが、それらを参考にしながら、学校を建設する時には工夫しながら進めていきたいと考えています。</p> <p>これまでご説明している、教室等を階層別に低層階の1・2階は小学生、高層階の3・4階は中学生が主に使用する教室を配置するという手法は、好事例として取り組まれている方法のひとつだと認識しており、笹島小中学校でも取り入れているものです。</p> <p>また、先進的に取り組んでいる他の自治体の状況も研究し、新しい併設校に生かしていきたいと考えています。</p>
5	<p>○昇降口に警備員を配置して、小学生と中学生を完全に分けて監視する計画をしているのでしょうか。</p>	<p>昇降口に警備員を配置して小中学生を分けることは考えていません。</p>

⑤ 新しい学校のイメージについて

No	ご意見・ご質問	教育委員会の考え方
1	<p>○今までの統合は小学校同士の統合が多かったのですが、小学校の施設面積規模やその他の基準は単一だったと思います。小中学校が併設となると小学校と中学校の基準面積を足したものが、小中学校の併設校の国の基準となっているのでしょうか。</p>	<p>学校整備に関する国の面積基準があり、小学校・中学校のそれぞれ基準があります。小学校と中学校の基準を足したものを併設校の基準として考えています。</p>
2	<p>○3校統合することによって、特別支援学級の1クラスあたりの人数が多くなって、支援が行き届かなくなるとい心配しています。</p>	<p>特別支援学級は障がい種ごとに設置することとなっており、1クラスの上限は8人までとなっています。8人を超えた場合は障がい種ごとに2クラスに分けていきます。</p> <p>統合したことによって、特別支援学級1クラスの人数がそのまま合計されるのではなく、障がい種ごとの人数に合わせた学級が開設されますのでこれまでと変わらない支援を行うことができます。</p>
3	<p>○冬の寒い時期の体育は体育館で実施することが多いと子どもに聞いています。小中学校で体育館を使うことは時間割上、可能なのでしょうか。</p>	<p>体育館については、中学生が使う体育館と小学生が使う体育館（兼格技場）をそれぞれ整備することを想定しています。なお、授業の時間割をどのように割り振るかについては、新しい学校の運営の中で決めていくこととなります。</p>

4	○小中学校を併設するのであれば、プールは深さの問題もあるので安全上の配慮をして外部委託にしたり、教職員の駐車場を森孝東小学校に設置したりするなど、運動場を十分に確保するような新しい方法も取り入れていただきたいと思います。	現状では、小学校と中学校の水泳学習は学校内に設置したプールで行うこととしておりますので、プールの整備が必要となります。いただいたご意見については、施設設計の際に参考とさせていただきます。
---	--	---

⑥ 通学の安全はどう考えているのかについて

No	ご意見・ご質問	教育委員会の考え方
1	○通学距離が長い地域の子どもたちに対しては、自転車通学を認めることや、通学途中に給水スペースを設けること、子どもたちの荷物を軽くすることなどの対策を検討してほしいです。	子どもたちの荷物については、不要な教科書や教材などを学校に置いていくことを各学校で進めています。 また、通学距離が長い生徒がいる中学校では、通学距離が3 km以上の場合には、学校の判断で自転車通学や市バスでの通学を認めている事例もあります。
2	○不登校の子どもが統計的に増えていますが、不登校になる原因はどこにあるのでしょうか。通学距離の長さや天候等によるものを理由にした不登校の児童・生徒が多いということはありませんか。	不登校の原因は、複合的で複雑なものが多く、子ども自身も何が原因で学校に行きたくないかわからないケースも多くあるのが実情です。子どもも親も教員も一緒になって悩んで、試行錯誤ながら対応させていただいているところで、不登校の原因についてお答えするのは難しいことですので、ご理解いただきたいと思います。

⑦ 今後のスケジュールに着いて

No	ご意見・ご質問	教育委員会の考え方
1	○森孝中の場所での工事期間中も、小学生は本地丘小の場所ではなく、森孝東小の場所で生活することを強く希望します。学習環境がたびたび変わることは、子どもにとっても親にとってもとても負担です。 ○本地丘小と森孝東小の児童数や入学者数を比べたら、森孝東小の子どもの方が多いのに、工事期間中の仮校舎として、森孝東小の児童が本地丘小の場所に通う計画となっているのは、おかしいと思います。	仮校舎への移転に関して、お子さまや保護者の方に大変ご負担をおかけすることについては、大変申し訳ございません。 ただ、本地丘小の場所でも森孝東小の場所でも、小学校は現状の活動を支障なく行えると考えていますが、一方で、本地丘小は森孝東小よりも運動場が狭いため、比較すると中学校の教育活動への支障がより大きくなると考えられます。これらのことから、森孝中の仮校舎は、森孝東小の場所の方が適切であると考えています。

○ その他

No	ご意見・ご質問	教育委員会の考え方
1	○名古屋市内で統合の対象となるのは何校ぐらいありますか。令和 33 年にはどのくらいになると想定していますか。	令和 7 年 5 月時点で小規模校が 67 校あります。森孝中ブロック以外のいくつかの地域でも、統合などのご提案をさせていただいていますが、これが具体的にどの程度進むのかについては、今の段階で具体的にご回答はできないところです。
2	○小学校の学区の広さが何倍もの範囲に広がったら、これまでのような地域コミュニティでの活動は困難になると思います。小さな学区で子どもの顔が見える関係があるからこそ、子どもを見守ることができると思います。	これまでの統合校の事例では、学区活動については、従前と同じ学区単位で活動をしていただいています。統合校の児童数についても、統合後に大幅に減っている学校はなく、統合後に学区活動が無くなった事例もありません。 これまでも地域活動で子どもたちと繋がりをもっていたいただいているのは、大変ありがたいことだと考えています。統合しても子どもたちは毎日、学区を通学していきますので、引き続き見守っていただけるとありがたいと考えています。
3	○区政協力委員会にも市から依頼される課題が沢山あり、いろいろな形で協力しています。統合を次々と進めていくと学区の範囲は広くなるが、数は少なくなる。そのようなことで市政としてよいのですか。 文科省の示す基準から、1 学級の人数を 30 名や 35 名と規定するのではなく、今後、名古屋市の人口は減少傾向である状況で、少子化を見据えて、名古屋市独自で教育特区のような形で考えて、例えば上限 20 名までのクラス編成にするようなことはできませんか。現状の少ない人数の学級を 2 つに分けるという発想はできないのでしょうか。	地域の皆様に学校が日々お世話になっているということは本当に身に染みて感じており、また、区政協力委員会やその長の皆様に区役所がどれほどお世話になっているか、同じ市役所の職員として理解しています。また、学校を核として皆様の活動が盛んに行われていることも理解しています。 その一方で、子どもたちの教育を豊かにしてあげたいというのが、教育委員会として一貫して考えており、少子化が進んでいく中でも、できるだけ大きな集団の中で、いろいろな人や考え方と接しながら育てほしいということを考えています。その考えを基に「ナゴヤ子どもいきいき学校づくり計画」を策定しています。 この計画の計画期間は、平成 31 年度から 2033 年度までの 15 年間と定めていますので、2033 年度まではこの計画に基づいて学校規模の適正化を進めていくという姿勢に変わりはありません。
4	○令和 2 年 1 月にはじめて統合計画についての説明を聞いた時に、この統合によって小中一貫校をつくると説明を受けました。それがいつの間にか、小中一貫校ではなく、単なる併設校というように変わりました。これについてなぜ変更になったのか、変更になった説明もなしにいつの間にか併設校ということになってしまったのか。	ご指摘のように統合計画の説明の途中の段階で方針が変更になったことは、前回の 10 月の意見交換でもお答えし、お詫びしているところです。 以前は、小中一貫校を設置していきたいという考えがあり、森孝中ブロックの統合においても進めていく方針で進めていました。しかし、その後、小中学校は、施設の状況に頼る小中一貫校から、施設が離れたままでも一貫教育を目指した方がよいということで、方針変更いたしました。

	<p>統合計画の基本の部分を変えたのなら、もう一度最初からやり直すことが普通ではないでしょうか。</p>	<p>これは、令和6年に公表した第4期教育振興基本計画に初めて盛り込まれたことで、「一貫教育の推進」として、中学校ブロックの中学校の教員と小学校の教員が子どもたちをどのように育てていくのか対話したり、学校間で連携をする授業をしたりということで、ハードに頼らずソフトの側面で一貫教育を果たしていこうという新しい考えを打ち出しています。そのため、説明内容を変更しています。</p> <p>位置付けが小中一貫校でなくても、同じ敷地の中で小学校と中学校が設置されていることを活かし、一貫教育を進めていきたいと考えています。</p>
5	<p>○小学校1年生から中学校3年生まで一緒になる教育は、市全体の問題ですから、学区との話し合いで決めるのではなく、市議会で議題にして、市民から選ばれた市議会議員からの質問に市長や教育長が答えていただくような大きな問題ではないかと思います。</p>	<p>「ナゴヤ子どもいきいき学校づくり計画」において、学校規模適正化の取り組み方法として、通学距離や敷地条件等で特に有効と考えられる場合は、小学校と中学校を併設した形での統合を検討することとしており、この場合、小・中学校合わせて過大とならない規模（30学級以下）で検討していくこととなっています。</p> <p>この計画の策定にあたっては、市議会へも説明し、ご意見をいただいています。また、パブリックコメントを募集し、広く市民の意見もお聞きしています。</p>
6	<p>○新しい取り組みとして小中学校の併設校を設置するのなら、教育委員会がきちんと他都市の学校を見学して調査をしたり、子どもの意見を聞いたりする必要があるのではないのでしょうか。名古屋市で初めて進めるものとしては慎重さが足りないと思います。</p>	<p>他都市の状況等の調査に関しましては、本市の職員も実際に他都市の併設型の一貫校の視察等に行ったり、その学校の先生方からの聞き取りを行ったりするなど調査・研究を行っています。統合を進めていくにあたっては、それらの状況等も参考としていきたいと考えています。</p>
7	<p>○小中学校の併設という新しい形を検討していただき、それがよりよい方向となるように、意見交換会を開いていただいています。しかし、寄せられた意見に対して、教育委員会からの回答は、「ご理解ください」ということが多く、意見が生かされたと感じられず、残念に思っています。</p> <p>○質問に対して「検討します」ばかりで、結局どのようになっているのか分かりません。その回答はいついただけるのでしょうか。いただいた回答で納得したら、この統合がスタートとするという理解でよいのでしょうか。</p>	<p>意見交換会においては、数多くの貴重なご意見をいただいております。現在は、具体的な取り組みプランを作成する段階であり、そのために皆様からご意見等をお聞きする機会として意見交換会を開催しているところです。</p> <p>また、施設設計の際や、新しい学校づくりの際にも、皆様からいただいたご意見を参考としながら進めていきたいと考えています。</p>

8	○意見交換会には、託児が必要だと思います。小学校統合の問題とのことで参加される方を想定していただき、託児を設けていただくことで、より影響がある方たちの意見を聞くことができると思います。	以前の意見交換会に向けても、託児についてのご提案をいただいております、ありがとうございます。ただ、誠に申し訳ございませんが、この度も託児の対応は致しておりません。ご理解いただきたく存じます。
9	○「意見交換会で統合に反対しましょう」というチラシが森孝東学区で配られました。意見交換会の時間を反対意見のためだけに使わないようにしていただきたいです。小学校の統合と中学の併設に係るお子さんの保護者の意見を聞いていただきたいです。	これまで意見交換会などにおいて、大変多くの貴重なご意見等をいただいております。教育委員会の考え方に対してご賛同いただけない方のご意見だけでなく、いろいろなお立場からの、ご心配・ご不安なご意見や、ご賛同いただいている方のご意見等もしっかりとお聞きし、参考にさせていただきたいと考えています。
10	○審議会の委員は公選されている人達ではありませんので、地元の合意があるか否か審議会では審議のために必要な課題となると思います。その時に、これまで提示してきた公開質問状や全住民に取ったアンケート結果、自治会などから出された文書、意見交換会で出された意見などを、そのまま審議会の資料として配付していただくことはできますか。	審議会に諮問する場合には、意見交換会でいただいたご意見等は審議会委員にお伝えしたいと考えています。また、公開質問状についても、教育委員会がいただいているものですので、審議会の委員にお示ししたいと考えています。
11	○住民が同意できないまま審議会に諮問することは反対です。	皆様のご心配、ご懸念、反対の声をこれまでの意見交換会でお伺いしてきました。皆様がどのような点でご心配、ご懸念があるのか、また反対されていることが明らかになってきたと思っています。 その上で、そこまで明らかになったのであれば、「教育委員会としてはどのように考えているのか」、また「地域の方はどのように仰っているのか」について、審議会に諮問して、この状況を評価してもらうことは、今後の選択肢の中に入ってくると考えています。 教育委員会として審議会に諮問するかどうかは、改めて判断をさせていただきます。もし諮問するとなれば、そのことは何らかの方法で皆様にもお伝えをさせていただきます。また、皆様の心配の声や文書でいただいたご意見などを審議会委員にお伝えすることは、これまでも行っていますし、このケースでも行っていきたいと考えています。